

# ピース・ウイング長崎 会報

# へいわ

128号

財団法人長崎平和推進協会 〒852-8117 長崎市平野町7番8号 ■電話(095)844-9922 FAX(095)844-9961  
<http://www.peace-wing-n.or.jp>

- 「市民のつどい」の報告
- アジアの若者による平和・国際交流のためのプログラム
- 祈念館だより（トルコ原爆展について）
- TOPICS  
（山口仙二氏長崎新聞文化章受章、平和案内人育成講座、公益財団法人移行申請の進捗状況）
- 土山秀夫氏 長崎名誉市民に
- 辺真一氏講演会のお知らせ
- 新刊・おすすめ図書紹介



10月30日に行われた国連軍縮週間市民のつどいの様子。（2～3ページに関連記事）



## 国連軍縮週間 『市民のつどい』を開催しました

涼しさを感じる秋風の吹く中、平和推進協会の恒例行事である「市民のつどい」を10月30日に資料館前広場にて開催しました。毎年同時開催である長崎市主催の「平和大行進」参加者をはじめ、原爆資料館を見学する観光客の皆様にも軍縮について考えていただく良い機会となったと思います。長崎県地域婦人連合（地婦連）、活水高校、当協会4部会などと共に様々なコーナーを設置し、多くの来場者に楽しんでいただきました。

### 戦時食コーナー

（地婦連・活水高校）

戦時食コーナーでは戦時中の生活を食事を通して体験してもらうため、当時と同じ材料で作った「すいとん」や「ふすま」、「芋料理」、「野草の天ぷら」などが並びました。



実際に食べた人に感想を聞くと、「意外と美味しい」「ヘルシーな感じでよかった」などの感想がありました。

地婦連の中山さんからは「このような料理の若者への申し送りも戦争体験の継承となるのでぜひ続けていきたい」とのコメントがあり、事務局でもぜひこのような機会を続けていきたいと思えます。

### 被爆写真コーナー

（写真資料調査部会）

長崎における原爆の惨状を撮影した写真パネル数十点を爆心地公園から上った場所で展示しました。多くの来場者が足を止め、ゆつくりと深堀部会長らの説明を受けながら見学していました。

外国からのお客様も多く、キャプションが日本語だけなのが残念だと伝えられ、より多くの方にこの原爆の惨状を詳しく伝えるためには英語、中国語、韓国語といった言語での説明が必要であることから、今後は事務局でもキャプションの多言語化に取り掛かりたいと感じております。



### 折鶴コーナー

（国際交流部会）



この折鶴作成は、核保有国へ千羽鶴を送ろうと、毎年、吉田部長が「外国人と市民のつどい」（毎月末、祈念館にて開催）等において折鶴の作成を呼び掛けているものです。プラハ演説により一段と核廃絶の機運が高まる中、今回はアメリカのオバマ大統領へ送る予定です。

### 環境にやさしい紙風船コーナー

（継承部会）





## 祝 土山秀夫先生が「名誉市民」に！



“名誉市民”を授与される土山先生  
(12月13日 市議会議場)

当協会が管理運営をしている国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館の原爆戦災誌翻訳監修委員会で、座長としてご尽力をいただいている土山秀夫先生が、この12月13日に「長崎名誉市民」に選ばれました。

先生は、長崎大学で学長などの要職に就かれるとともに、長崎平和宣言文の起草委員及び核兵器廃絶地球市民長崎集会の実行委員長を長年務められるなど、高邁な人格と識見を持ち、平和活動に関して卓越した指導力を発揮され、文化や社会の進展に努められてきました。その功績は卓絶しており、長崎市民の誇りであるということで、永井隆博士以来6人目の名誉市民の称号を授与されたものです。先生の益々のご活躍を、心から期待申し上げます。

今回は、星型と鳩の形をした紙風船を選びました。この風船は太陽光（紫外線）に当たると水・炭酸ガス・バイオマス（生物資源）に分解され、環境に負荷をかけないように作られております。特に人気だったのは鳩型風船で、多くの子ども達が平和への想いを書き、持ち帰っていました。



いつもこの市民のつどいを盛り上げてくださるのが音楽部会によるミニコンサートです。「原爆許すまじ」「青い空」など皆さんがよくご存じの曲を何度も熱唱しました。



### ミニコンサート (音楽部会)



行進でお腹のすいた子ども達に大人気なのが、このわたがし・ポップコーンのコーナーです。協会職員が手をベタベタにしながらい生懸命作っているわたがしの甘い

### ポップコーン・わたがしコーナー (協会職員)

い匂いや、ポップコーンの香ばしい匂いに子ども達は夢中で、早くできないかと並んでいました。ポップコーンのとなりで臨時販売を行ったハンドタオルもおかげ様で飛ぶように売れ、開始30分で売り切れる反響ぶりでした。

### 朗読・紙しばい (ピースバトン・ナガサキ)



市内の小中学校へ赴き、原爆についての読み聞かせを行っているボランティア団体「ピースバトン・ナガサキ」が、「私たちが伝える被爆体験」など、原爆に関する体験や紙しばいを朗読しました。座席は常に満員で皆、熱心に聞き入っていました。



# 「アジアの若者による平和・国際交流のためのプログラム 〜平和ネットワーク構築に向けて〜」を実施しました

追悼平和祈念館では、平和推進協会との共催で、11月19日から同24日にかけて、「アジアの若者による平和・国際交流のためのプログラム〜平和ネットワーク構築に向けて〜」を実施しました。

このプログラムは今年で2回目となりますが、推進協会が平成15年から実施してきた「アジア青年平和交流事業」における実績を基礎として、祈念館と当協会との協力関係を一層緊密にしながら、今後アジアの若者による平和のためのネットワークを構築していくためにはどのような手法があるのか、または、どのような手法をとるべきかなどについて有識者の提言を得て具体化していくとともに、あわせて日本を含むアジアの若者達が交流を行う場を設定することにより、ネットワーク構築への足がかりとすることを目的としています。

今回、マレーシア・マラヤ大学のモハメド・ナスルディン博士、インドネシア・アングララス大学の

ラニー・エミリア博士、韓国・社団法人釜山国際親善協会の李相烈常任理事やマレーシア、韓国の学生の皆さんなどを海外より招いて行われました。

プログラムの内容は次のとおりです。

11月19日(金)

ー 海外招聘者来崎

ー 歓迎セレモニー

11月20日(土)

ー 原爆資料館、追悼平和祈念館見学

ー 被爆者体験講話(奥村アヤ子氏)

ー 平和公園、爆心地公園見学

11月21日(日)

ー 在外被爆者のピースネットによる被爆体験講話

ー 原爆・平和に関する映画の上映会

11月22日(月)

ー 昨年度の海外原爆展の報告(マレーシア・マラヤ大学より)

11月23日(火・祝)

ー シンポジウム予備討論会

ー シンポジウム「アジアの若者による平和ネットワーク構築の手法について」

11月24日(水)

ー 海外招聘者帰国

ここでは、一般の方にも公開して行われました11月21日の在外被爆者の体験講話と上映会及び23日のシンポジウムについて、詳しく報告します。

## 在外被爆者のピースネットによる被爆体験講話

11月21日の午前は、長崎で被爆し、アメリカ人と結婚後アメリカに移住した被爆者カーペンターすえさんとピータース道子さんが、ロスアンゼルス州サンディエゴのすえさんのご自宅と祈念館をピースネット(インターネット会議システム)で結んで被爆体験講話を行いました。また、元アメリカ軍人で、すえさんのご主人であるロニーさんもお話に加まりました。講話では、原爆での悲惨な体験

やアメリカに移住後の苦労や偏見について語ってもらいました。

祈念館の会場には、長崎在住の被爆者も来場しており、互いに被爆体験を伝える取り組みを続けていこうとエールが送られました。



## 原爆平和に関する映画の上映会

この日の午後には、日本人監督竹田信平氏のアメリカ大陸在住の被爆者を追ったドキュメンタリー「ヒロシマ・ナガサキダウンロード」とアメリカ人監督イレーナ・



ソル氏の第二次世界大戦中に日本軍が開発した風船爆弾をテーマにした「紙の翼に乗って」の上映会を行いました。

上映会終了後には、マレーシア、韓国からの学生と日本の学生との間で、意見交換会を行いました。その中で、「風船爆弾というものがあつたと初めて知った。原爆による被害を訴えていくためには、戦争中に起こった事実ももつと知らなければならぬ。」という日本人学生からの意見が印象的でした。

## シンポジウム 「アジアの若者による平和ネットワーク構築の手法について」



23日には、海外からの招聘者に加えて、財団法人広島平和文化セ

ンターのステイブ・ブ・リーパー理事長、ピースボートの川崎哲共同代表、それから、今回のプログラムの企画、運営で協力いただいた長崎新社会人ネットワークの鈴木章悟代表もパネリストとして参加し、シンポジウム「アジアの若者による平和ネットワーク構築の手法について」を開催しました。

シンポジウムでは、平和のための若者のネットワークを広げていくためには「若者が平和活動にかわり続けるように、それが資格取得などのキャリアにつながるシステム作りが必要である。」や「若者による国際的な会議を定期的に開催してはどうか。」などの意見が出されました。また、「本当の意味で若者のネットワークを作るには、大人が若者に活動の場だけを与えて、そこで彼らに自由に任せる必要がある。」との問題提起もなされました。

さらに、パネリスト間の議論の後には来場者との質疑応答が行われ、「ネットワーク構築におけるプロセスでは、大人と若者がそれぞれの役割を果たすことが大切である。」などの意見が出されました。

祈念館と推進協会では、このシ

ンポジウムでの議論をベースにして、若者による平和ネットワーク構築のための具体的なプラン作りを行っていくことにしております。



今回のプログラムの企画、運営面で協力いただいた長崎新社会人ネットワーク理事の永吉由加子さんより感想文を寄稿していただきました。

『アジアの若者による平和・国際交流のためのプログラム』においてボランティアスタッフとして参加させていただきました「長崎新社会人ネットワーク」の永吉と申します。

このプログラムには当会から8人が参加し、事前の準備や当日の進行・受付を担当しました。私は上映会の司会を担当し、大変緊張したのですが、祈念館のみなさまに教えていただきながらなんとか乗り切ることができたかなと思

ます。また、ご来場いただいた方と親交を深めることができ、有意義な時間を過ごすことができました。

23日のシンポジウムでは、当会の鈴木代表がパネリストとして参加しました。アジアの若者が情報を共有し、協力しあうことの重要性と、若者が平和に関する問題に興味を持ち、自ら行動するため、さまざまな方向から後押ししていくことの必要性を感じました。また、このような場に参加することで、被爆者の方々や平和に向けての取り組みをされている各世代・各国の方々に出会い、それぞれの持つネットワークがつながっていくことを実感しました。





# ピョン ジン イル 辺 真一氏 講演会

「だれでもわかるコリアレポート ～朝鮮半島の現在・未来～」

コリア・レポートの編集長であり、テレビなどでもおなじみの辺真一氏による講演会です。北朝鮮問題や日朝関係について分かりやすくお話しいただきます。

日 時：平成23年1月30日(日) 午後1時～午後2時30分（正午開場）

場 所：長崎市平和会館ホール（長崎市平野町7-8）

入 場 料：無料

応募方法：往復はがきに「郵便番号」「住所」「氏名」「電話番号」「応募人数※」および協会会員の方は「会員」を朱書きでご記入のうえ、下記あて先までお送りください。

※はがき1枚につき1名の応募となりますが、協会会員の方に限り、1枚で2名様応募できます。

応募締切：平成23年1月7日(金)（消印有効）※応募者多数の場合は抽選となります。

あて先

〒852-8117 長崎市平野町7番8号

（財）長崎平和推進協会 辺真一氏講演会係



【辺真一氏】（ピョン・ジンイル氏）

朝鮮新報記者、PEOPLE'S KOREA 記者を経て、1982年に独立。朝鮮半島専門誌『コリア・レポート』を創刊し、現在にいたるまで編集長を務めている。

現在は、朝鮮問題（北朝鮮による日本人拉致問題など）のコメンテーターとして、テレビ、ラジオに出演するなど、マスコミ各界で活躍している。

一緒に平和の輪を広げませんか？

## 会員加入のご案内



長崎平和推進協会は「核兵器廃絶と世界恒久平和」を目指して昭和58年に官民一体となって設立されました。

被爆体験と平和の尊さを次の世代に伝える「被爆体験講話」や原爆資料館や被爆遺構を案内する「平和案内人」の派遣など平和に関するさまざまな活動をしています。

くわしいパンフレットをご用意していますので、まずはお気軽にお問い合わせください。

お問い合わせ先：（財）長崎平和推進協会 長崎市平野町7-8

電話095-844-9922（平日午前9時～午後5時）



# 祈念館だより

## 海外原爆展開催

国立長崎原爆死没者追悼平和祈念館（追悼平和祈念館）では平成22年度第2回目の海外原爆展を中東地域で初となるトルコ共和国国内の2都市で開催いたしました。第1回目は首都のアンカラで10月17日から11月7日まで、2回目はイスタンブールで11月25日から12月12日まで行いました。



約200人の参加で行われた開会式の様子

10月16日に行われた開会式では、非核特使に任命された被爆者の井黒ギヨミさん（被爆当時19歳）による被爆体験講話を行いました。外国の大使館員の出席も多くみられ、被爆体験講話中はシーンと静

まり、みなさん信じられないといった感想でした。なお、被爆体験講話や開会式の様子はトルコの新聞やテレビにも大きく取りあげられました。

トルコと日本の間には、1890年にオスマン帝国の軍艦エルトゥールル号の日本訪問の帰路、紀州沖で沈没した際に日本側が官民あげての手厚い救護により69名が救助され、日本の巡洋艦によりトルコに送還されたという友好の歴史があり、本年2010年に120年という節目を刻みます。また、その95年後にイラン・イラク戦争の時のトルコ航空機による在留邦人救出劇も両国の友好を象徴するエピソードとして有名です。この原爆展には、11時02分で止まった時計等の被災資料が20点と広島・長崎の被爆写真パネル48点と被爆証言映像も放映されました。

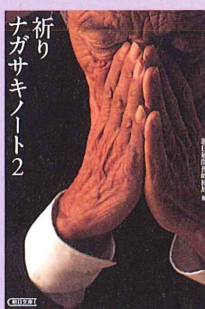


折り鶴コーナーで折り方を習う参加者

## 新刊紹介

原爆資料館図書販売コーナーで、新たに取り扱い始めた本を紹介いたします。是非お買い求めください。

●「祈り ナガサキノート2」  
朝日新聞社出版 693円



※関連図書「ナガサキノート」

●「証言 2010」（ヒロシマ・ナガサキの声）  
長崎の証言の会著  
汐文社 1,575円

●「Leaving My Beloved Children Behind」  
（永井隆著「この子を残して」の英語版です。）  
サンパウロ出版 1,600円

●「命（いのち）」  
（在韓被爆者・金文成さん救援の記録）  
茅野丈二、平野信人編著  
長崎新聞社出版 1,575円

●「創作集」あの日鬼になった」  
（被爆体験を基にした創作集です。）  
山田拓民著  
長崎新聞社出版 1,470円

●「あの日」あの日のことを」  
（広島・長崎原爆のミニ写真集です。）  
平和博物館を創る会 著・出版  
500円

●「あの夏の日」  
（長崎原爆の実相を伝える絵本です。）  
葉祥明著 自由国民社出版  
1,680円

## おすすめ図書紹介

原爆資料館図書販売コーナーで、販売数が多いお薦め商品をご紹介します。

事前学習・資料集  
○「ながさき原爆の記録」  
発行 長崎市  
販売 長崎平和推進協会 500円

○「原爆被爆記録写真集」  
編集 長崎原爆資料館  
発行 長崎平和推進協会 500円

○「長崎原爆資料館（資料館見学・被爆地めぐり平和学習の手引書）」  
発行 長崎平和推進協会 300円

○「長崎の鐘」  
永井隆著 サンパウロ出版 788円

○「この子を残して」あの日のことを」  
（広島・長崎原爆のミニ写真集です。）  
平和博物館を創る会 著・出版  
500円

○「あの日」あの日のことを」  
（広島・長崎原爆の実相を伝える絵本です。）  
葉祥明著 自由国民社出版  
1,680円

○「祈り」  
長崎の証言の会著  
汐文社 1,575円

○「Leaving My Beloved Children Behind」  
（永井隆著「この子を残して」の英語版です。）  
サンパウロ出版 1,600円

○「命（いのち）」  
（在韓被爆者・金文成さん救援の記録）  
茅野丈二、平野信人編著  
長崎新聞社出版 1,575円

○「創作集」あの日鬼になった」  
（被爆体験を基にした創作集です。）  
山田拓民著  
長崎新聞社出版 1,470円

○「あの日」あの日のことを」  
（広島・長崎原爆の実相を伝える絵本です。）  
葉祥明著 自由国民社出版  
1,680円

○「祈り」  
朝日新聞社出版 693円

○「証言 2010」（ヒロシマ・ナガサキの声）  
長崎の証言の会著  
汐文社 1,575円

○「Leaving My Beloved Children Behind」  
（永井隆著「この子を残して」の英語版です。）  
サンパウロ出版 1,600円

○「命（いのち）」  
（在韓被爆者・金文成さん救援の記録）  
茅野丈二、平野信人編著  
長崎新聞社出版 1,575円

○「創作集」あの日鬼になった」  
（被爆体験を基にした創作集です。）  
山田拓民著  
長崎新聞社出版 1,470円



## 山口仙二さん、 長崎新聞文化章を受章

昭和58年の当協会設立当初から平成12年まで、協会の理事としてご尽力いただいた山口仙二さんが、去る11月25日に長崎新聞文化章を受章されました。長年にわたり、被爆の後遺症と闘いながら、被爆者援護や核兵器廃絶の運動を牽引されてきた実績が、大きく評価されたものです。今後とも、お体に気をつけながら活躍されることをお祈りします。

## 公益財団法人への移行、 県へ認定申請書を提出

公益法人の制度改革に伴い、当協会が公益財団法人への移行作業を進めていることは以前から報告しているところですが、10月26日に公益財団法人移行認定申請書を県の窓口へ提出しました。

手続きが順調にすすめば、今年度中に移行が完了することを予測し、現在、事務作業を漏れや遅れがないように進めています。

## 第4期生 平和案内人育成講座始まる

11月27日(土)、53名の方からお申込みをいただいた「第4期生平和案内人育成講座」が開講いたしました。

第1回講座では、船山忠弘副理事長より「平和案内人に求めるもの」と題した被爆の実相を伝えることについての挨拶と、継承部会員の永野悦子さんの被爆体験講話を行いました。

第3回講座では、8班に分かれ、先輩となる平和案内人を講師に約3時間、原爆資料館内の説明を受け、ガイドのポイントなどを学びました。



その他にも、深堀好敏写真資料調査部会長の「写真で見る原爆投下時の長崎」をはじめ多くの専門の方を招いて、様々な角度から原爆についての講義を行っております。

今後は原爆資料館周辺の被爆建造物等のガイド実習や講義など、全15回の講座を重ね、平成23年3月1日の修了式を目指します。

### 会員数報告

◎維持会員	1、203名
◎賛助会員	171名
◎学生会員	11名

平成22年12月20日現在

### 寄付者紹介

ありがとうございます

◎匿名	五千元
◎大村市競艇企業局	五十万円
◎山脇佳朗	十万円

(敬称略)

10月7日協会事務局において、大村市競艇企業局より原爆の日(8月9日)のレースの収益金の一部である50万円を寄附として頂きました。昨年度に引き続きのご寄附、ありがとうございます。当協会の平和推進事業に使わせて頂きます。



競艇企業局有川次長(右)  
横瀬理事長(左)